

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立

八幡工業

高等学校

23

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>・地元北九州で活躍できる工業人材を育成する学校 地域住民との連携による実践的なものづくりを通して、社会に貢献する意欲や自己有用感を高め、知識や技術・技能を身に付けた人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<p>・工業人として必要な基礎的・基本的な知識・技術の習得 ・ものづくりを通して培う社会で活かせる思考・判断・表現力 ・資格取得や部活動で目標に向かって努力し続ける姿勢 ・工業人としてルールを守り、他者を思いやる心</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<p>・インターンシップ等の体験的、実践的なキャリア教育の推進 ・「得意技コース制」の導入による高度技能者の育成 1 実験実習の充実、2 熟練技能者からの実習指導、3 実践的資格の取得 ・学び直しができる少人数制授業、・進学希望者にも対応できる選択制授業</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<p>・地元で貢献できる大人になりたい人 ・ものづくりに高い意欲をもつ人 ・チャレンジ精神のある人 ・自他の健康・安全を考えて行動できる人</p>

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>『鍛ほめ福岡メソッド』を軸に「子ども本位」の指導を推進し、持続可能な社会の創り手として、地元で貢献できる八工生を育成していく。</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>昨年度は特色化選抜を実施し生徒数は募集定員に達した。これで満足することなく教育活動を活発化させるとともに、教職員の授業改善を推進するために「主体的対話的な深い学び」を定着させ、指導と評価の一体化を目指した学習評価を実現することによって魅力ある授業が実施できるように取り組む。また、魅力ある授業によってさらなる学校活性化につなげたい。</p>	<p>主体的に対話的な深い学びを行い授業改善を図る</p>	<p>学習評価を検討し、観点別評価を定着させ、生徒の資質・能力の向上を図る</p>	<p>A</p>
	<p>他人が見ていないところで努力する生徒を育成</p>	<p>美点凝視を取り入れ、見ていない部分でも努力を続ける生徒を育成する</p>	
	<p>進路実現に向けて努力を続ける生徒を育成</p>	<p>組織的な指導体制を構築し意識を高める取組を企画させ充実を図る</p>	
	<p>ものづくり活動や資格取得により各科の特色化の推進</p>	<p>専門学科の特色を引き出し課題発見・課題解決能力の育成に取り組む</p>	
	<p>学校HPやSNS等を活用し、積極的な広報活動を推進</p>	<p>生徒たちの持つ良さをデジタルコンテンツ化し戦略的に取り組む</p>	
	<p>職員の働き方を見直し、不祥事のない環境作り</p>	<p>いろいろな悩みを相談し合える明るく風通しの良い職場環境作り</p>	

自己評価

学校関係者評価

評価項目		具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部	教務課	学習指導の充実	新学習指導要領に準拠した学習指導と評価の一体化を図る。 主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくりの改善を図る。	学習に関する回答結果をもとに各クラスで個別対応を行った。	A	A	A	授業評価の結果を各自が分析しながら次年度の構想を立てている。次年度以降は、この分析結果など、具体的方策に基づく各教科の実践報告の機会があってもよいと考える。	A	概ね目標を達成している。教科書のみの限定された知識学習から、ICTによる個に応じた学習への転換が見られ、生徒自身の主体性を尊重した学習が行われている。
	庶務課	学校行事の円滑な計画・提示・実施	2ヶ月行事予定をHPおよびteams他で配信し必要な方が迅速に情報を得られるようにする。 行事予定の変更がある場合への対応として月の中旬を目安に変更版を発信する。	昨年度のアンケートで寄せられたご意見をもとに改善に取り組めた	A	A		行事予定提示・変更を職員には会議資料とTeamsとClassroomにて、保護者へはHPにて行ってきた。必ず聞く方とそうではない方がいるのが現状で、すべての資料をデジタル移行するのはもう少しかかりそうだと感じている。	A	
	研修課	校内研修の改善・充実	一斉ではなく、ICT等、少人数のスキル別の研修を実施する。 参加・体験型の研修を企画・実施し、研修の効果を高める。	外部アンケートは実施していない	A	B		生徒理解、ICT、不祥事防止、緊急時対応についての研修を実施した。特に専門の先生を招いての実践的な研修は好評であったので、次年度も計画したい。	A	
生徒指導部	生徒指導課	問題行動の未然防止 規範意識の育成	生徒との信頼関係を築き、職員一丸となり、即時指導を徹底し、問題行動の未然防止に努める。 年に5回以上の講演会等を実施することで規範意識を高め自尊感情を養わせる。	いじめに関するアンケートや家庭用チェックリスト等を活用して早期発見に努めた	B	B	A	問題行動が続いてしまったが、校内でのトラブルは少なかったように感じる。来年度は生徒達に校外での規範意識を高める対策をしたい。	A	入学後、多くの生徒が社会人となる専門高校なので、社会に通用する人材の育成に努めてもらいたい。また、いじめの早期発見に努めていただき、安全・安心な学校としていただきたい。
	保健環境課	職員生徒の心身の健康管理 校内美化意識の向上	感染症対策の実施とカウンセリング体制の充実 清掃区域の見える化と生徒の美化及び監督者の意識向上	昨年度のアンケートで寄せられたご意見をもとに改善に取り組めた	A	A		ここ数年の職員生徒の学校美化に対する意識の向上により、かなり校内の美化が保たれてきている。今年度再びコロナを含め感染症罹患患者が増加してきているので、生徒にも認識させたい。	A	
	生徒会課	部活動の活性化 生徒の自主自励の育成	部活動紹介・体験を通して入部を促し、部活動加入率の向上を図る 生徒を主体とした企画立案を促す	部活動紹介、体験入部を通して部活動への加入を促すことができた	A	A		生徒が主体的に部活動紹介やその他の生徒会活動にも取り組むことができ、生徒会活動を活発に行うことができた。次年度はより生徒の主体性を意識した生徒会運営を目指したい。	A	
進路指導部	進路指導課	第1進路希望の実現	3年生の第1進路希望(就職・進学)を実現する。 1・2年生の進路意識向上のためキャリアガイダンス等の充実を図る。	全学年で進路希望調査を定期的に行い、生徒の進路意識の向上に努めた。	A	A	A	3年生は多くの求人数にも恵まれ早期に就職希望者の全員内定が実現した。また、公務員希望者も全員公務員に内定することができた。来年度も、今年と同様の結果を実現したい。	A	早期にほとんどの3年生の進路が決まっており、内容も生徒・保護者ともに満足のいく結果であることから、高く評価できる。早い時期からの進路意識の高揚に努めていただきたい。
	情報図書課	図書館利用・貸出数の向上 ICTの知識・技能の向上	生徒一人あたりの年間貸出数3冊を目指す 情報備品の管理を徹底し、知識・技能を向上させ環境と機会の充実	流行の書籍を入荷し向上を図った。教員生徒ともICT機器に触れる機会を増やした。	A	A		紙の書籍に触れることで様々な能力の活性化にもつながっていた。情報備品の整理を徹底し、今年度の紛失物はなく、貸与する際の情報共有も行っていた。来年度からはより一層な管理が必要になると思われる。	A	
広報部	広報課	地域貢献やSNSを活用した幅広いPR	HP・X・インスタグラムを活用し、多くの人に本校の活動を知ってもらう お年寄りお助け隊や八工ハッチチャレンジプロジェクトを通じた地域貢献	ハチ公ハッチチャレンジプロジェクト参加者からのアンケートの結果から改善に務めた	A	A	A	新ホームページの立ち上げ、X・Instagramでの広報活動でフォロワーも増えた。ハチ公ハッチチャレンジプロジェクトは好評であるが次年度は予算措置が未定のため取り組み方法の検討が必要である。	A	広報活動の成果が、受検者の増加につながっている。

様式3

学年	1学年	安心・安全なクラスと学年づくり	同級生を大切に作る雰囲気づくり。 職員相互で情報交換を密に行い生徒の状況把握に努め寄り添う。	年数回進路アンケートを実施し、生徒の現状を把握し共有を行った。	B A	A	A	クラス替えも行われるため情報の共有を行い、インターンシップや、修学旅行など学年行事に向けての指導を行う。	A	どの学年も生徒が活躍できるよう取り組んでいた。様々な課題を抱えて学校に登校している生徒もいると思うので、一人ひとりに寄り添う学校にしていきたい。
	2学年	いじめのない安全・安心な学年2年後の進路実現	定期的な学年会議・担任会議等により生徒の情報交換を緊密に行う。教育相談を充実させ、進路選択や学校生活への不安の解消を図る。	定期的に進路アンケートを実施し、生徒の進路意識の向上を図った。	A A	A		生徒の校内での生活状況は、全体的に落ち着いており3学年での進路実現は期待できる状況である。3学年に向けて担任団で生徒の状況や進路情報の共有を図りたい。	A	
	3学年	第一希望進路の実現	教員間で生徒の進路状況を共有し、学年所属職員を中心に手厚い進路指導を行う。進路指導部と連携をとり、生徒にとって有意義な研修会等を実施する。	年数回進路アンケートを実施し、生徒の進路実現のため面談等に活用した。	A B	A		卒業生や外部講師の先生方をお招きした研修会は生徒からも好評であった。また、先生方のご協力のもと就職希望者に対して面接指導を実施していただき就職希望は早い段階で進路実現をすることができた。	A	
機械系	機械科	基礎学力の定着	職員で個人サポートを行い必要な基礎学力を身に付ける。職員で補修等を行い、資格取得のサポートをする。	必要に応じて個別指導を行い基礎学力の定着及び資格取得に繋げた。	A A	A	A	機械科職員で情報共有を密に行い、生徒に合わせた指導をすることができた。次年度からは難易度の上がる資格試験に向けても、職員で情報共有し、生徒に合わせた指導をしていきたい。	A	学科の特徴を生かした教育により、生徒が自分自身の新たな可能性に気づかせてもらい、その伸長を図っていると感じた。高い自尊感情を持つことは、生徒の未来に大きな変化をもたらすので、今後も継続した専門教育をお願いしたい。また、地元就職も大変好調とのことなので、引き続き有用な生徒の育成をお願いしたい。
	電子機械科	自分発見及び自己実現	各種コンテスト(ものづくり・技能競技大会等)に参加し、入賞を目指す。計算・情報技術100%、危険物60%、第二種電気工事士80%を目指す。	全生徒が充実した学校生活を送れるよう職員一丸となって取り組み、最終的には進路実現につなげた。	B A	A		ものづくりコンテストは、惜しくも電気工部門が四位であったが全ての種目において生徒たちも頑張った。また取得については、目標を上回り特にボイラー一技士試験では、久しぶりに80%合格を達成した。	A	
	材料技術科	基礎学力の充実と人間性の涵養	学習理解が十分でない生徒は個別指導等を行い、基礎学力を充実させる。生徒情報を共有し、一枚岩となって生徒の相談・指導にあたる。	アンケート結果に基づき、基礎基本学力の定着に取り組んだ	B A	A		学科の職員の風通しを良くし、様々な情報共有が出来るような雰囲気醸成する。さらに生徒指導、教科指導でも連携し、サポートしあえるような職員集団を構築する。生徒の人間性と学力の向上に一丸となって取り組む。	A	
電気系	電気科	資格取得や進路実現など生徒の自己肯定感の充実	生徒の進路実現のために資格取得を推進する。生徒が目標を定めて自発的に取り組む指導を行う。	アンケートでは、自らの意思で進路を決めた生徒は90%であったが、積極的に自ら資格を取得した生徒は40%であった。	B A	A	進路実現については、教員の対応は協力的であるとの回答であり、今後も積極的にかわりたい。資格取得に関しては、生徒が主体的に取り組むような指導を工夫していきたい。	A		
土木系	土木科	基本的な生活習慣の確立と将来を見据えた資格取得	身の回りの整理整頓から校内外の美化活動を徹底推進に努める。将来を見据えた資格取得と個別指導による希望進路実現を行う。	アンケートより公務員への進路選択に向けた説明の機会を設けることができた。必要に応じた個別指導に取り組むことができた。	B A	B	基本的な生活習慣においては、生徒個々へ荷物の整理整頓から徹底指導する必要がある。進路実現については、公務員希望者への指導、対応等が有意義のものとなった。	B		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<p>・行事の精選を行うことにより生み出された時間を、生徒の個を伸ばす教育実践のために用いる。また、教育効果の高い行事や、地域と連携した活動を積極的に取り入れることで学校の活性化を目指す。</p> <p>・ICTの活用について職員研修をけることで、より効果的で実践的な授業を目指す。さらに、生徒が授業で得た知識を実習や課題研究等の実勢的な活動を通じて技術の習得に繋がるような授業実践を図る。</p> <p>・生徒や保護者、地元産業界からのニーズを踏まえた活動を通して、生徒が地域社会の一員として主体的に行動する力の育成を図る。</p>

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
初めて室内で行われた体育大会で、生徒たちの創意工夫が随所にみられ、感心と感動を覚えた体育大会でした。	